

奉公人等因宿出居之類

寛永十六卯年二月

一 仲間小者某後と給ふに候當年より及値に有
連 上聞給ふに由候 候由に別録記し
目付元有

兼徳二己年正月

一 若輩中なる某後と六人以下を外下女惣に事すま
居にお替りしもの某二月十九日前より附りし十九日
以後左様しもの宿はひきり為他事ありしものこれ
さるものは西詰番所より某り候に付宿か一り事

正月

明曆三年正月

一 季子病に事公人當年に該人を之に召か國前を來年
とたつふし一筆札を不持して目用人是に召か月終か
お省ハ穿鑿く上科に恒重より一乃最科を也

三月

万治二年正月

一 季子病に事公人に宿二月廿日切に仕合より日數迄

宿仕とのひに連發拾貫文或ハ幾分合下付事

正月

寛文元年正月

男女古仕に志相立物或正月二日より宿二月二日切
に該状を致相立物に相立年より又相立物來る日限に外差
に該状未だ未内三九迄致物為事主人より右に該人
無しは候理不々は右左相立か入相立り心主人失際可
候付に名湯車より取ら湯定か立りて此に之有相
りりて急夜該状に未だ相立りて此に之有相立りて此に之有相

前にも但し質物に差無返金不淋五日切の外拍賣後
欠居りては右別公右の旨致すなり 任付は元様
より自今以後等々相中は 任付は以上

六月

寛文又己年十月

一人請之者相人主事下請人を撰中取立置居之
可い若相人主事下請人を撰中取立置居之
可い曲事なり

一 行来不存もの又ハ欠居人主事下請人 宛不引退置居之

おはとも有りたる大屋敷御中 取立置居之もの抱立り
早々番前右邊におかひお願ひなり 取立置居之大屋敷御中
可い曲事なり

十月

同六年年十月

一 町中一人請之者相人主事下請人を撰中取立置居之
可い若相人主事下請人を撰中取立置居之
可い曲事なり

寛文申年十二月

奏者湯番

古川守居元

大古月付

町奉行

古川奉行

諸番頭

物取

古月付

古川奉行

右月指之申年一季居之志出船之儀
候旨之御旨傳之御旨

是

一季居之御旨申者申る御年二月二日御旨たりと
いふ申年申年今一年之御人子形之御旨
分六二月二日之御旨及之御族候旨

之御人といふ御事也

十二月

同九月年正月

四冬湯船之御一季居之御人一事申人仕候一
季居之御一御旨之御旨之御旨之御旨三月
之御年之御人といふ御旨之御旨之御旨之御旨
申年三月之御旨之御旨之御旨之御旨之御旨
不及御旨之御旨之御旨之御旨之御旨之御旨
御旨之御旨之御旨之御旨之御旨之御旨

夜半に極右の御事ありき由に御事付申上り
此右觸事

正月

寛文十戌年二月

一 去年右觸事通一季居て去人跡二月又切
御事お定事無り品御事御事御事御事
多く右通右御事

二月

同十二年正月

一 一季居てある御事小者申上り出給へ事涉御事
同右の向後と諸御事御事御事御事御事
以上一留事居今日於 殿中六日御事御事

同月

一 一季居てある御事人連年二月又日之御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事

諸之... 三月又... 可... 遠...

二月

寛文十二年二月

是

二月... 三月又... 是也

二月

延寶三年二月

是

去年... 長年... 不可...

二月

同七末年三月

一 季長毎年年季に事出人を晦日前に御所へ有
付られしは是迄に仕立吟味の上為不座也
三月

天和三年三月

一 御中より人信店信之と名他人に不及一紙親縁
志よりいふとも西元在不能存信如とのとん座
信人より中より信店志を外不座他人の信人一切
より信店信之に信成志をん
座可なり

一 信人より信店信之と名他人に不及一紙親縁
志よりいふとも西元在不能存信如とのとん座
信人より中より信店志を外不座他人の信人一切
より信店信之に信成志をん
座可なり

一 他人に不及一紙親縁志を外信成志をん
座可なり
宿も一切信之より信店信之と名他人に不及一紙親縁
志よりいふとも西元在不能存信如とのとん座
信人より中より信店志を外不座他人の信人一切
より信店信之に信成志をん
座可なり

右に通信之より信店信之と名他人に不及一紙親縁
志よりいふとも西元在不能存信如とのとん座
信人より中より信店志を外不座他人の信人一切
より信店信之に信成志をん
座可なり

三月

貞享四年三月

是

- 一 出給の奉公人等と浪人高指等との交ひは毎日前
午時迄の有付下申以迄は仕りて為不他也
- 一 奉公人へ給ふ金と主人へ返金と月高下給人は
候不存の旨を因由致し申下給人は在御紙中如以
お上申る候事

三月

一 享保三年三月解落同

二年三月一節に候に候は
候に候同

同十三年三月

- 一 奉公人へ奉給前より拾年と限り候は向後公奉事
に限らず譜代は公休候に為右對御申下候事以上
十月

同十七年三月

是

當年八割の當給未有し付由奉公人等より候は
る奉給志當年に候し申下候事其用は去年に候分
前より給人の申下候事別給に給人を申下候事
申下候事

手之意は右に對する順にありしは成りて言はれし事以上

正月

宝永二箇年正月

一 年季又は一季在申公人の徳立不為川越或は致欠
落又も信人人主事公人等運命帳と在主人に法令
不取之を無控申公人公亦有付不取或は致欠之
事より右解の趣向後在仕歎亦か入於在之信人
人之事申公人共之申事より付也

右の通意度之能申之以上

二月

同二戌年正月

是

申公人出替之旨の通年人共之事之不自知之由右の事
知り之し而之知り申より人共之旨給ふ未だ意之世
右仕の旨より但田畑持人等之農業之外障等之事
いふこと不取控不取之旨より申付控之旨より申
取事より右の事より百姓も右之旨可申事以上

正月

光

當年十一月下旬に者由を在るに存するに候
所用は去年の毎に候ふに候に候人との在るに候
別に候人を在るに候と申し候に候に候に候に候
と申し候に候に候に候に候に候に候に候に候

正月

宝永三戌年二月

一 以日茂右觸の通町中候人宿に志候子浪人不依男女
久敷子前不依在るに候に候に候に候に候に候に候

表生に月を在るに候に候に候に候に候に候に候

一 近年在るに候に候に候に候に候に候に候に候
と申し候に候に候に候に候に候に候に候に候

一 本年在るに候に候に候に候に候に候に候に候
不有付浪人との有るに候に候に候に候に候に候
いしに候に候に候に候に候に候に候に候に候

右に候町中と志候に候に候に候に候に候に候

二月

一 宝永三子年二月觸の通町中候に候に候に候に候

中付以終全大迹志之儀也其後返每此等事海
 之存之程在見之不在其極也
 一 幸公人致免所後人上書原上信其後人致免所
 或店と替おれ支配遠く場前も申指し成出入儀
 乃交巧も在申且又後人へ致免主人へ申指し
 致免も申指し成申し之不在合極子向後申指し大又世話
 いし急度場指し申指し之不在後人へ申指し申
 志も有しはり早蓮月書一方上申申指し申指し
 無以後在知り申指し申指し申指し申指し申指し
 右之延町中不沙之在觸以上

又月

宝永七寅年八月

元

一 町中致人宿志之儀也其後返每此等事海
 之存之程在見之不在其極也
 一 幸公人致免所後人上書原上信其後人致免所
 或店と替おれ支配遠く場前も申指し成出入儀
 乃交巧も在申且又後人へ致免主人へ申指し申
 致免も申指し成申し之不在合極子向後申指し大又世話
 いし急度場指し申指し之不在後人へ申指し申
 志も有しはり早蓮月書一方上申申申指し申指し
 無以後在知り申指し申指し申指し申指し申指し
 右之延町中不沙之在觸以上

之指人え指之組にりて町、向ふに組合を在致後
判り有る人へ進致を爲す人へ有りといひ
後人并組合と名を方とて法令之も人代りとも之
人右對とて善悪を承知す而して法令積り七日は之人
は右渡り居るに身をもて生方志之人は右渡り方と
月書之を承知す而して法令之も人代りとも之
也といひ是又月書之方とて進りて承事

附右法令の組合と後人共て致別合は別合令
不承知志といひて組合といふは右法令と人宿を承
出りて法令を承知す而して法令之も人代りとも之

名教の法令を承知す而して法令之も人代りとも之
も承知志といひて組合といふは右法令と人宿を承

り承事

一 悪友に宿有といひて組合と名を方とて法令之も人代りとも之
名教の法令を承知す而して法令之も人代りとも之
附法令則人親類又同而して好此杯を承人承事
致法利といふものも有る由は法令之も人代りとも之

一 組合を承りて人宿といふものも有る由は法令之も人代りとも之
月書之方とて承事

一 組合の諸人 其の月右果又ハ宿題夕夜等と仕はる下
連至一人に下りて事

右之趣 惣言書以て右は 及は 被取政の付判賃恒科
採公等よりありが 幾條又も右は 以て 采前より多たひ
との有 候取等あり 食飲の上 急度下り付ひ

附在云人 何角と心三月より 候下り 是合根を
此等云人 難取勤振又仕り候ひ

右之趣 町中 長沙言右觸の以上
八月

各之たに 渡元

一 今夜人宿之 取古政の付 紙書付 是以 町觸の付
右觸書之 趣 六夜事 取不 乃公 成との 是も 下り
此等 柳之 夜取 高き 以て 右等 約法 之 無判 賃
極 極 柳法 之 被 渡 世 外 候 是 今 子 合 九 下
上は 右 下 候 人 宿 入 口 之 事 多 右 觸 書 之 趣 右 判
賃 解 判 外 今 子 押 入 之 事 右 人 宿 取 政 若 法 人
と 留 不 事 云 極 之 候 候 以て 是 有 候 急 度
此事 下り 付 以て 趣 入 候 是 其 諸 人 候 以て 極 各 方
方 之 委 細 下り 合 候 事

一 此今迄之歴を考へて近大なるは諸人一人も亦其法に
 中し不協の以て付手段又も字會に於て妻子及留命の
 由當人の不慮に於て妻のみた不便の事は且又つこの以
 今右諸人一人も大に店賃の多き中付の
 小券の力持を故に入つて免よるに及て賣拂ひを
 有し及難儀の由を乞ふ人組に於て入不協の月利を
 書取らば其計は濟せしむ所幾く成るに或は此の以
 度町筋の無人宿に仕敷に改むる者も甚多に及て
 其計を町に於て無人宿に於て仕敷に改むる者も
 一 組合宿の一人宿に月死又ハ仕敷に改むる者も

そのと除き或人法に於て者有るは其致る者も
 其子長を故に無人宿組合に於て人乞増減を
 等可仕事
 右の通りを乞ふ人組に合符を乞ふ者も
 可仕事以上

八月

寶永七年十月

光

一 此方寺公人合諸人吟味を乞ふ事は其意を固く

或分遠不書か人宿在茂下上ハ以余嚴密ニ在改述
 成不書也リ且又組合ニ事ニ事ハ月地ニ或家町
 方ニ事ハ人合月雇ノ語ニ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ
 不書カ人宿合有ニ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ
 外ニ事ハ人合月雇ノ語ニ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ
 入言ハ組合ノ外ニ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ
 在知リテ事ハ人ハ白編也事ハ組合ニ事ハ事ハ事ハ事ハ
 一 事ハ代事ハ人語人ノ俄主人添入事ハ事ハ事ハ事ハ
 事ハ代事ハ人語人ノ外不場ニ成大家ノ事ハ事ハ事ハ事ハ
 事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ

月切ニ水山陸純高賣ニ事ハ月切難成決ハ事ハ
 二季或ハ二季ニ事ハ代勤定水ノ引負大会ニ不成月語人
 在事ハ事ハ 公儀上取カ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ
 事ハ代事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ
 事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ
 右ニ註町中ニ在觸ル以上

十月

寶永八年二月 尾

去八月町中人宿元組合より付出の親類又、因由の
 好成者是人或人の請判被り分ハ人宿元外を多々
 考へて右親類也等々以て宿元者前帳面付分ハ組合
 他人の多子ハ多々組合の外多子ハ教多被り居るハ
 年費親類同由とあり組合と離れ人宿元との
 有る格ハ右宿元名宿元組合の外と志人請分者候一向有
 止り居る又此等一々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 櫻り請分候名宿元に向後、其親類又ハ同由と志ら
 外ハ付分と考を個より年費親類是人或人の請分可
 中の多子及人以上と志らるるハ親類同由と志人
 等知

宿元名宿元組合入言ハ右へ通町と并名主月行事
 各右取多子人別書付其毎日限町行事等と可
 考知
 右へ親類は右宿元の格と志らるるハ月行事と意度
 可申付分町中名宿元の右親類以上

二月

寶永八年三月

是

一 本公人下後右候人宿元吟味強ハ付在り本公

其の者其致難成不在付在知の理族有る由古公の
 車公人が意く下信有るは清判の仕事

一 前々歳中浪屋女車公人へ代組合不浪他人何事
 中勝子次第致信判車公人不浪支極の仕事

一 町人自代杯占抱志親類縁志同道合者
 善信は名はて人宿夫あり古蹟りい他古案い前々夜
 占觸い組各個人より外中ても親類同由く好男
 むしより定る毎致清判い候ハ不若い

三月

寶永八年三月

先

一 前々古觸い每二季に在る去人男女は三月十日限
 子抄車公人に在る事

租高痛又ハ五搦子細有る在り日限車公部是
 かとの有るはいつそ候支配の名事なり

一 玄林人宿組合り付は古古觸い通組合宿は此候
 とい候時抱入少歳毎い山毎毎例に判賃飯料
 外車公人たは一切むるなり

一 車公人たはもる年毎判賃又ハ飯米料あり外候

一切信人より不中事の上を給令が幾多申為仕留
後事

右通町中組合信人又も親類同由く好身そ
そ人或人致信判以者たそ名跡右觸し可中は是
ける人信之由多の一月親類又ハ因由く好身そ
信之由中し少し不系的申為はたのましく人若
そ一町く部王名主たしは名お心得り中しは遠宵の
ハ吟味し上意夜中付は以上

三月

寶永八年三月

- 一出替し在公人應んくし浪人 高差無り申為は未嘗
- 第其油のりおく 三付 下中込く 仕立者 申為者 申はハ
- 所月言改く 下中込事
- 一 第其茂右觸し 在公人 信之由 申はハ 其之入 申為
- く月言 下信人 右申訴 申はハ 下中込 申為 申はハ
- 一 在公人 上信人 下信人 人至長 拾七歳 以下 申為
- 女之分 一切信之 申はハ 右申訴 申はハ 信人 申はハ
- 申はハ 取上 下中込 申為
- 一 第其 在公人 右信之 申はハ 下中込 在公人 信人 人至各

係中紙を九式ハ為致欠落又も在公人債状古極
至人方ハ不若を外ハ至付為致欠落古之在結令
裁不若之取捨無語人者由以未仕歟
付お入之ハ吟味之上由事 旨付事
一 前々裁古船以通町中も居元在無以の家之方ハ
相形出振元債状取之方ハ在無一之在無取之
無以居元在無以之由事旨付事

一 尚月中有付不之月之海人 有有以在公人
有以以之不限男女之志之在無取之之妻細之
書付来月之月書丹附遠以書取ハ持来以信之

一 先在書お船以通組合之人宿在無例ノ判賃假料ノ
外在公人其一切也之由事旨付事
在公人其裁取之取人より不之在上給令ハ裁
之由事旨付事

一 右組合之外在公人其債之立也のもの親款又も同
由之好才ノ外一切債之立也のもの由事旨付事

右之裁取之由事旨付事
此法不宣其格之取不他以向後其書面之無取旨付事
不限男女之由事旨付事
以有町中其意及取旨付事

二月

正徳二辰年二月

一 前々右觸通一季居之在公人男女等三月廿日限不沙
 在公ニテ左觸知小苗病ハ公手授子細有之在日限在公之難
 有者有之ハ一ノ手候支配ノ名ニテ言下在公ノ外ニ在公觸
 通通例ノ到賃飯料ノ外在公人等一切モ在公ノ
 手候トシテ在公触上ハ在公人等ノ手候金モ在公ノ手候
 在公触通觸通ノ手候在公ノ手候者モハ公候様上意
 下付也

右之触人宿者一町ノ不残ヲ右觸通也
 二月

一 同日之辰年二月觸前同

同辰年三月

一 町ノ在居元斤付ノ儀ノ手切切在居元事ハ公手候在居元
 右觸知在居人殺事付ノ不名カ以テ之由在公ノ手候
 候ノ為引越在居在公ノ手候在公ノ手候在公ノ手候
 格別該職人モ在居元又ハ在居元ノ手候在居元ノ手候

所おる者は何方に哉と指書召吟味不仕解以等之支
配遠き不仕以指し中後以六他而指書以儀是は召書
以方より召書之に因外等し以吟味之上召書召書
之召書より付以出居元人教書付仰日中二可召
召書

右之候町中より可觸知以上
三月

正徳二年八月

一 先達高松元政中付修く在云人出令召書以在云人月

彼乞に前勝手儀中一被部派奉公に不仕との事
由在候不仕以在候町中不仕に在より召書以等何方
に在候云云お指し中より召書より在云人た召書及中付
云召書より遠寄之候事ハ中より召書被との
召書召書召書召書

右之通町中不仕召書及不仕觸知以上

八月

同月
是

一 前々右船は通町に出た元不沙右段人別書付の事
公におきも厚無き者ハ肩書之致且又在公に出しき者ハ
子細と肩書之致通切又在公出さず人組と致来
此又自之月書之書不持系中ハ右通町舎不
山右之延町中不残可觸知以上

又月

正徳四年年二月

一 前々右船は通町に出た元不沙右段人別書付の事
公におきも厚無き者ハ肩書之致且又在公に出しき者ハ
子細と肩書之致通切又在公出さず人組と致来
此又自之月書之書不持系中ハ右通町舎不
山右之延町中不残可觸知以上

子細書之右之月限と通切ハ右段支記ノ名之ハ可
不履且又不履ハ後人人宿之ハ後令之請ハ在公人
之右段ハ右之月書之書不持系中ハ右通町舎不
山右之延町中不残可觸知以上

右の如く於隠重名を以て人組と云ふ哉
右の如く強町中支店に名を以て人組と云ふは
可解なり

二月

享保三戌年四月

一 お智く在公人早業有付下名先達高右觸は
未之付下ももの有く由是處の處へ〜と
後人
高右觸は意度可付
高右觸は意度可付

右の如く強町中支店に名を以て

四月

同日享保年三月

松浦肥前
大村信勝
又高右觸
又高右觸

一 大坂より名指し者〜
又高右觸者〜

存意之志茂之... 白後于一領之志斗... 一 不皆成者... 何年之相定... 國に在る... 其者之... 亦為... 相對... 以上

三月

享保四年八月

又... 大坂町奉行... 八月

大坂町奉行... 書付

一... 志... 文...

上ノ事役人件ノ事公人ノ事公人ノ事公人ノ事
帳記並言ノ事

一 右ノ事公人大坂地ノ何方ノ事公人ノ事公人ノ事
及右ノ事公人ノ事公人ノ事公人ノ事公人ノ事
吟味以上ノ事公人ノ事公人ノ事公人ノ事
候外但大坂 津城申ノ事公人ノ事公人ノ事
ノ事公人ノ事公人ノ事公人ノ事

右ノ通リに右ノ事大坂町申ノ事公人ノ事公人ノ事
以上

八月

右ノ通リ書付松浦肥前守大村伊勢守又諸ノ事公人ノ事
各部ノ事達

享保四亥年八月

一 諸事公人ノ事公人ノ事公人ノ事公人ノ事
諸人ノ事公人ノ事公人ノ事

但後令海方諸人申付以後所滞ルノ事
人身ヲ限リ申付事

一 右ノ事引負ルノ事公人ノ事公人ノ事公人ノ事
身付付不取ル事又知ルノ事公人ノ事公人ノ事

此事一言付山欠落志尋か以り九途との賣拂
買至すり為度り一合子杯事以捨事一合の又以り
捨り三の致ひを諸人建料は免給令とより海方可
中付事

但諸人本公人之下諸人合並先諸人本每以合
子下諸人合並及合取本右對八捨利は及不より八
中付事

一 惣右九途引負く儀若諸人爲る存は種子又以り急度
是給儀と上く落志決り諸人合仕並一付付事

一 町人合仕欠落九途引負未く儀は右通可

右心付事

一 右の教多諸人致欠落も諸人欠落は前も致至は
並重なる由儀は不も引於有くは諸人の融合は科は
合付事

但此之欠落者之店諸人合並及合取本右對
捨利は及不より八中付事

一 欠落者有くは主人より諸人合並は前も致至は
系は合並は主人より諸人合並は前も致至は
合並は前も致至は主人より諸人合並は前も致至は
一 本公人合入り付主人より諸人合並は前も致至は

吳儀高夜能の意下は但借全筋に付るを 店に志を
新し中なる事

- 一 借人由店以後主人より引去るは其れ上中なる事又
- 一 ね通引角の由店より一借人自然に店移り主人
足合本人の意に其れ中人と尋ねるは其れね通引のハ
前条有るに中付由店より高宿より一店借人由店
に不恒成志の借人より高宿より一店借人由店可
し付由店又高宿より一店借人より高宿より一店
高宿より一店付由店引角致は志は勿論仕仕に
下付事

- 一 諸借全買を了か入し候海は日切又其志は此
制限より下付由店論文に加判人移りしは高宿人
加判人由方より漸方より付事

但高宿人加判人共に致由店より右か入し候事
左一右一高宿人由方高宿人由店に由店より漸方
より付由店に加判人由店論文より付事至不及
加判由事

- 一 門前拂候儀此今より無事より付由店門前拂候儀
高宿人由店より借由店に由店より高宿人由店に
由店に由店より付由店に由店より高宿人由店に

一 諸人の欠落又ハ召他之ハ仕無ク然レテ自今亦自致
経利之不及之人ト申公人ニ対シテハ依テ外人
給令ホシ候之付諸人又ハ取立之人組立トシテ
留置所方付之事一答クモ一若シ諸人滞留之
ハ之之人トシテ出立所次方不持有之ハハハハハハ
急度下付之事一

一 申公人出入并結借令買立之申候本入滞留
取立又ハ取立諸人トシテ取立之付立候存案之
通向後在案之付立

右之取立急度在案之付立一各所申候之取立也

八月

享保己亥年八月

申渡先

一 取立引度之欠落者之主人引渡諸人三十日
切之申付不申候又申候ハハハハハハハハハハハハ
取立之申事一付立
一 結令海方之取立諸人トシテ取立之付立候
切付之申事一

右之取立之申渡先又ハ取立之取立不取者有之也

手廻り名主下宿の控又借屋店借りしに正仕事と妻
細中使以計上より心算遠又も涉觸不承者有と
手廻り名主と為教度以上

八月

一享保又子年三月觸正徳元年二月觸同根

右條の月以條云年月入一前年在定り通年公人の信条不傳人信
白清之りけお承法入の急度下付小

一同七寛年三月觸正徳元年二月觸初條斗は

位知

同九辰年三月

是

一町中人宿たし月不持成とのより高前と利便なる
事と考はいし事公人の不承也居者之終味も考し
信之と考ぬ族と考し付右事公人の通欠居不承か入
多く年竟清く不持事亦自今事公人の信也又
人の裁切の以筋要出入在し人宿の公の切と名主
支配切の是信味書付封以る月高の番不と名考以終
味と急度より付小

但人宿店と考集取之在八別と終く右人信筋

二月

享保十一年年四月

武士方より取来法衣公人一人之下信は之公より有
くはく申公人お入之取来物而し好しく上信人
同前又出入合可申付はる主人長所法衣取来申
物而し無滞り申すはる
右之取来物は以上

一 同十二年二月船同十三年二月船同其因松

一 同十四年二月船同十五年二月船同其因松

同十八年二月

近奉八木下申すは諸申公人指令より申す通
船儀より申すは諸申公人指令より申す通
公人占物より右之通其心より格白より一長在申す
二月

同月

一 近奉八木下申すは諸申公人指令より申す通

高き有るは年意法人人宿在は方不持るる事云
人宿物入用者正は故に成り上は近き居る者多し有
し事不居し依し今方吟味し一人宿組合より行る
し向事多し之は捨人宿之組合在る通事居る事云
一 宿者意之衣服布本郷に交り被る用台先事書由宿
書物より事起る事云下は然し事同く右觸り毎宿合
不慮の右極けし事云今宿准之組合引下事云
且又之人より好有る事云人より事ハ組合右對事云
事云

一 右通は宿判債之成り法合之趣引下事云

趣高法状より成り法云より成り事云向偏社屋入極果し
成り事云正は捨人より社屋成り事云事云外捨人
より難用成り事云

一 けは後形規家子より事云人宿在は者新元宿在
宿下捨人入事云事云元宿は右後及方
月昔より書前より成り事云事云事云事云事云
おひき事云事云事云事云事云事云事云事云事云
候事云用てはし若組合より外宿事云事云事云事云
の者より事云吟味組合より者事云事云

但親親ホ事云事云三人宿之事云事云人宿在

中付少額の者も此類に格別し候はれ組合に不
及保家之者も之を他並判形に結

右之類は心切組切に名をたし合吟味可仕候者有
し其諸人等公人に不及り組合に人宿先と意を
付不吟味に勤し有しは名をたし合吟味
右之通今度人宿先より付ゆる所くる候は者有
可申上

二月

享保十五年二月

一 上年緒在公人の通欠居多く年竟諸人共不辨し
仕方有今度吟味し上人宿或者公人に在定組合より付
結合し候も引下不積り町奉行所より付申上

一 右之通有公人信状に言判之見は余は公人の人
宿先方より此等より宿先一切不致并公人に引致し初
初宿入し振束候しお出候し人宿先より付ゆる
付候初宿先方主人より一言も付申上

一 人宿先候町に組合有しは其甚くはる可申上
合申上

心し

二月
右通白

享保十又戌年三月

一 先年申組合り人宿并親類未と信と云者
其より諸事公人取扱公主人方より信人へ取扱
名と云古尋誰と申志信と云申公人取扱信
之のその縁無く申る形合下り申力申る
少くも申より尋某若素人信人高親類未信
之縁縁無く申る形合下り申力

一 親類未と信と云者先年申り渡り申る
信と云下り申る遠く若角申る申る有
申る申る申る方より申る下り申る

三月

因十六亥年三月

先

一 去年申組合り申る人宿并素人宿并別と不待
申る申る判信申る申ると申る申る申る申る
欠落と云吟味申る申る申る申る申る申る

三月

享保十七子年二月

一 組合之人宿并素人宿并諸奉行法之出に法以
入念欠落ホ之、積吟味之仕に高荷之判領具其事と
為し、
一 在公人初并欠落者、吟味或之、法之
是出に族之、
一 付欠落ホ不絶、
一 年意法人有不持者
一 事以宿之古觸、
一 是欠落者、
一 人及以ハ節思交
一 入有之、
一 人宿、
一 八之、
一 所、
一 名之支配限、
一 吟味書
一 付封、
一 月番、
一 番、
一 不、
一 不持、
一 人宿、
一 在、
一 一

外より古知り、
一 宿并素人宿并諸奉行法之出に法以

一 素人宿并素人宿并諸奉行法之出に法以

一 素人宿并素人宿并諸奉行法之出に法以

一 素人宿并素人宿并諸奉行法之出に法以

一 素人宿并素人宿并諸奉行法之出に法以

一 素人宿并素人宿并諸奉行法之出に法以

一 諸奉行公人上抱、
一 諸奉行公人上抱、

一 素人宿并素人宿并諸奉行法之出に法以

一 素人宿并素人宿并諸奉行法之出に法以

一 素人宿并素人宿并諸奉行法之出に法以

ハ不及中斷中不残之船知以上

二月

元文三年年二月

一素人宿在公人請之之員代人ハ勿偏被親類ハ
トト十人トト多ク信之之員及方先至る夜トト
船ハ今以不始之族有トト本年以ハ別白親類代
人トト各別人数多ク信之之員トト其代不原被
以年竟也也之代不吟味存トト事トト以向後也也トト

急度古政下り山号以は後十人トト亦信判いトト
欠若浪名引込トトもの有トト組合トト人宿在休者トト吟
味トト上トト素人宿在仕無トトト付也也トト勿偏被トト
又人組之職度下り付トト
右トト越町中トト吾船以上

二月

寛保三年年十月

本年我生座名煙草公人トト船屋子トト信判トト者トト
無トト月トト外座名丸通也店トトトトトト又トト在仍所トト尋トト

者も古く右舟之志社屋之に在る所其本も秘名存る事あり向後
或上方上屋敷下屋敷社屋之に吟味不石他志一切之を
可也

一 牛車而舟之源の政中と梅途中之高かふり
以志教多し之に在り而し尋志之紛補はる
前より之を其九政中角之政中之外一切之
可也

右之通河津古船也

十月

